

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

勝ち過ぎた、弱め過ぎた

洋の東西を問わず、権力基盤の脆弱な指導者ほど外に敵を作り常に戦闘モードを喧伝したがるようです。ひとつ問題が解決すれば、新たな敵をつくり、常に自転車操業。隣国をして「瀬戸際外交」などと揶揄するだけではいつ被害者の憂き目にあうか心配が尽きません。

今の中国を見ていると、そんなよくあるパターンがピシヤリと当てはまりません。そこは大国としての風格などと持ち上げたくなりますが、もう一つの超米國に喧嘩を売り、EUを恫喝し、周辺国にちょっかいを出すことを厭わないところが目につきます。まさに四面皆敵ですが、そんな状況でも本人はそれほど凹んでいません。

バブル期の1990年代始め、製造業において日本がひとり勝ちとなり「勝ちすぎた」時代がありました。オイルマネーをジャパンマネーが凌駕した瞬間でした。そこで米国はアジアで唯一民主主義が定着した日本と輸出企業を超円高というカードを使って弱めることに熱中しました。その結果、アジアの中でまともに話し合いが出来る日本を「弱めすぎた」のです。

現在のアジアの騒がしさは、明治以降～先の大戦を経過することで醸成されたアジアで突出した日本のプレゼンスが大幅に低下したことによるものと思います。米国の後悔するところを感じる現在のアジア情勢です。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。別紙の通り、各支店で入社試験を随時実施しております。お問い合わせをお待ち申し上げます。

松本 隆一郎